

主 題：互いのために祈り合う

聖書箇所：ローマ人への手紙 12章12節

私たちはこれまでローマ人への手紙の12章12節から「祈り」について学んで来ました。

パウロは「絶えず祈りに励みなさい」と言いました。何があっても揺るぐことなく、忍耐強く祈り続けていきなさい、祈りに専念しなさいと、つまり「祈りの人になりなさい」というチャレンジを、私たちはパウロから受けて来ました。祈りが大切であるというその四つの理由をすでに見て来ました。

☆愛の実践

8. 絶えず祈りに励みなさい

A. 祈りの重要性

1. 主の命令だから

主なる神がそのことを命じておられるからそれだけで十分です。神の命令なのです。

2. 霊的成長に不可欠だから

また、私たちの信仰が成長するために祈りは不可欠です。祈らない人は成長しません。

3. 神の働きを為すための力だから

また、神の働きを為すために、私たちは祈りを通して力を得ることができます。

4. 神は祈りを通して働かれるから

そして、神が働かれる手段であると言いました。祈りは力があって人の救いに役立ちます。多くの皆さんが自分の愛する者たちや、友人のために祈っています。そして、同時に、祈りをもって大きな祝福が与えられます。だから、時代を越えて人々は祈りがいかに大切であるかを訴え続けて来ました。祈りの凄さ、またその重要さを人々は語り続けて来ました。

ローマ時代の偉大な説教家の一人、クリソストムは祈りについてこのように話しています。「祈りは火の力を征服した。祈りは獅子の怒りを制し、王なき国を静めて安泰に至らせ、戦いを止めさせ基礎を固くし、悪霊を追い出し死の鎖を断ち切り、天の門を開き、病を和らげ、悪計を破り、町を滅亡から救い、太陽をその道に停止させ、兵士の進軍を阻んだ。祈りは万能の武器、消耗しない宝、無尽蔵の鉱山、雲なき空、暴風にもかき乱されない天である。祈りは実に祝福の根本、源泉、また、無限の恩恵の母である。」と、4世紀に活躍したクリソストムはこのように語っています。彼のことは聞かなくても、私たちも祈りの大切さを知っています。祈りがいかに私たちの信仰生活において重要であるかを知っています。問題は、それを知っていながらなぜ祈らないのかということです。祈りが大切だということは知っています。皆さんに「祈りは大切ですか？」と質問すると、間違いなく、100%の人が「大切だ」とお答えになるでしょう。では、なぜ、私たちの日々の生活で祈らないのでしょうか？なぜ、祈禱会がポピュラーでないのでしょうか？二つの理由があります。

B. 祈りが必要であると分かっているながら、どうして祈らないのか？

1. 肉の存在

私たちのうちに存在する「肉」に問題があるのです。この肉は神のみこころに逆らうものです。私たちがすでに見てきたローマ人への手紙8：7にはこのように書かれています。「というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」、また、同じローマ7：18-19ではこのように言っています。「私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。：19 私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。」と。パウロが告白したように、神の前に喜ばれることをしたいという思いをもっている、神の前に正しいことをしたいという思いをもっている、神のみこころに従って行きたいという思いをもっている、でも、「それは難しい」、なぜなら、私のうちにあるこの肉が、そのような歩みに進んで行かないように、そのような生き方をしないようにと私を妨げるからです。みこころに従わないようにと私たちのうちに働き続けているとみことばは教えます。ガラテヤ人への手紙5章でもパウロは次のように言います。5：17「なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。」、私たちはその葛藤の中を生活しているのです。神の前に正しいことをしたい、でも、なかなか実践できない私たちです。祈ろうとして祈っても長く続きません。忙しい日々の中で自分が望んでいるように神に時間をささげることが難

しい、私たちはこのような葛藤の中を生きています。

2. サタンの存在

同時に、私たちの邪魔をするのは肉だけではありません。サタンの存在にも原因があります。サタンが望んでいることは私たちがみこころに反することです。イエスが弟子たちに「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」と聞かれたとき、ペテロは「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と答えています（マタイ16：15、16）。そのペテロがイエスの口からこの後イエス・キリストは十字架にかけられ、死んだあと三日後によみがえるということを聞いたとき、「イエスを引き寄せて、いさめ始めた。」と記されています（16：22）。そのようなことがあなたに起こるはずはありませんと。そのときに主がペテロに対してこのようなことを言われました。16：23「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」、サタンがしたいことがここに記されています。主の邪魔をするのです。神のみこころに邪魔をして妨げようとするのです。

ですから、確かに、このようなものが私たちの周りに存在しているのです。ペテロのことばを借りるなら、1ペテロ5：8「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのようになり、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」、気をつけなければいけないのです。私たちのうちにみこころに逆らうようにと働く肉が存在し、罪が存在し、同時に、サタンも私たちがみこころに従って行かないようにと様々なものを用いて誘惑するというのです。これが現実です。このようなことが私たちの中で起こっているのです。私たちに分かっていることは、このようなものに私たちは勝利することが出来るということです。確かに、我々が栄光のからだをいただくまで、この肉との葛藤があります。敗北も多々経験します。サタンや悪霊たちの様々な妨げも存在しています。しかし、主は私たちに、その中であって私たちは勝利出来ると教えています。

◎サタンに勝利するには？

勝利するために、二つのことがみことばの中に記されています。皆さんがよくご存じのエペソ人への手紙6章にパウロが記したことです。

1. 主なる神の六つの武具を身に着ける エペソ6：13-17

「13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、15 足には平和の福音の備えをはきなさい。16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。」

1) 腰には真理の帯 14節

「真理」とは聖書のみことばのことです。ですから、それをしっかりと蓄えて、どんなときにもそれに従い、今、私たちが直面している戦いに備えるということです。

2) 胸には正義の胸当て 14節

聖い生き方のことです。私たちのうちに罪が入って来ないように、私たち自身が守っていくということです。

3) 足には平和の福音を備え 15節

福音を語ることです。この福音によってのみ、私たちは神と平和を築くことができます。平和をいただいた者として、我々は平和の福音を伝えていくのです。

4) 信仰の大盾 16節

主なる神への信頼のことです。どんなときにでもこの方に信頼をもって生きて行きなさいと言います。

5) 救いのかぶと 17節

我々が主にお会いするそのときを覚えて歩んで行くのです。今だけでなく、しっかりと永遠を見て生きて行きなさいと言うのです。どんなに迫害があっても、主の前に立つときに主は、その信仰にに応じて必ず相応しい報いを与えてくださるからです。

6) 御霊の与える剣 17節

どんなときにでもしっかりと主なる神のみことばに立つということです。

私たちの武器はみことばです。神が何をおっしゃったかです。確かに、パウロはこの六つの武器を私たちに教えてくれます。同時に、私たちは確かにこの武器をいただいている者として、この武器を用いて戦って行きますが、覚えておかなければいけないことは、私たちは一人で戦うのではないということです。我々は一人で戦うのではありません。神が私たちとともに戦ってくださるのです。ですから、私たちは日々神を仰ぎ、神を常に覚えることです。神に助けを求め、神に戦っていただくことです。そこに勝利があります。神がご自身の勝利を勝ち取ってくださるのです。ですから、まず、私たちは神が備

えてくださった武具をしっかりと身に着けることです。

2. 主なる神への祈り エペソ 6 : 18

武具を身に着けるだけではない、祈りが必要なのです。エペソ 6 : 18にはこのように書かれています。「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」と。武具を身に着けるだけでは、勝利することはできません。力が必要なのです。そして、その力は「祈り」によって得ることができます。私たちはもうすでに学んで来ました。しかも、この 18 節を見ると「すべての聖徒のために」と記されています。もちろん、自分のために祈ることも必要ですが、兄弟姉妹たちもみな同じ戦場にいるのです。私たちは同じ戦いを戦っているのです。だから、互いのために祈り合っていくことが必要だと言うのです。ですから、パウロは様々なところでそのような祈りを求めました。また、祈っているということを書いてあります。Ⅰテサロニケ 5 : 25 「兄弟たち。私たちのためにも祈ってください。」、Ⅱテサロニケ 1 : 11 「そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいように。」、エペソ 1 : 16 「あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。」。ですから、パウロも祈りを必要としました。自分のことを自分で祈るだけでなく、人にも祈ってもらいたい、そして、私も人々のために祈ると言うのです。

このことに関して、ヤコブもこのように言います。ヤコブ 5 : 16 a 「ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。」と。ギリシャ語の権威である A・T・ロバートソンはこのように言います。「サタンが一番恐れているのは、最も弱いクリスチャンがひざまずいているのを見るときである」と。彼が言ったことを考えてみてください。我々全員が立ち上がって、サタンに向かっても勝ち目はありません。我々が何人集まろうとサタンは怖くないのです。しかし、彼が恐れるのは、彼がどうすることも出来ない神が働かれるときです。我々が自分の力でやろうとしているときには彼は恐れを抱きません。しかし、我々が全能である神に助けを求めたときに、彼は震え上がるのです。我々は神の力が必要です。我々には神に働いていただかなければいけません。神の力、神の助けが必要なのです。

C. 命題、「お互いのために祈り合う」ための二つの祈りのテーマについて学ぶ

さて、今から私たちがしたいことは「互いのために祈り合う」その実践を試みることです。というのは、パウロは私たちに「互いのために祈り合いなさい」と言いました。そして、実際に、パウロは祈っていました。私たちは今から、パウロが祈っていた二つの祈りの課題を見ていきます。パウロはこのようなことを祈っていたのです。それで、願わくは私たちも今からそのことを自分のために、また、兄弟姉妹のために祈る者になりたいのです。もちろん、私たちはだれかが病気であったならその人のために祈ります。様々な必要に対して祈ります。でも、恐らく間違いないことは、100%ではないと思いますが、今から私たちが見ていくような祈りの課題を、私たちは覚えて祈っていないということです。このような課題をもって自分のために、また、人々のために祈っていないのです。だから、我々はそれを見て、そして、それを今日から実践する者になりたいのです。パウロが祈っていた特に二つのことを見たいと思います。パウロはエペソの兄弟姉妹のためにこの二つのことを祈りました。エペソ人への手紙 1 章を開いてください。15-23 節まで。「こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、:16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。:17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。:18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、:19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。:20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、:21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。:22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。:23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」

パウロは 15-16 節で、エペソの兄弟姉妹が救われたことを神に感謝しています。そして、その後、17 節から、今度はエペソの兄弟姉妹たちに対する祈りを記しています。彼は二つのことを祈りました。これを是非あなたに覚えておいていただきたいのです。一つ目の祈りは、エペソの兄弟姉妹たちが、神をより深く正しく知るようになることです。二つ目は、エペソのクリスチャンたちが自分たちに約束された祝福を正しく知ることです。この二つです。まず、一つ目から見て行きましょう。

1. 主なる神をより深く、正しく知るように 17節

17節「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」、この17節を見たとき「御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」とあるので、この読者たちは救われていなかったということになります。なぜなら、私たちは御霊をいただくことによって救いに与るからです。しかし、15、16節を見ると、この読者たちは明らかに救いに与っている者たちです。ですから、この17節でパウロが言っていることは、「聖霊なる神をどうぞ彼らに与えてください」というリクエストではなかったのです。パウロが祈ったことは、この兄弟姉妹たちが「神を知るための知恵と啓示の御霊を」もつようにということでした。「神を知るための知恵と啓示」を彼らが得ることをパウロは望んだのです。もちろん、聖霊なる神の助けがなければこのことは不可能です。聖霊なる神が働いて、我々にこの大切な真理を教えてくれるのです。

パウロが言わんとしたことをもう少し見ていきましょう。彼は「啓示」と「知恵」という二つのことばを使っています。非常に大切なことばです。

(1) 「啓示」=これは神の真理を明らかにするということです。ですからパウロは、神が働いてこのエペソの兄弟姉妹たちが神に対する真理に目が開かれていくように、神に関する真理をしっかりと理解できるようにと、そのことを望んでいるのです。なぜ、パウロはこのようなことを望んだのでしょうか？エペソのクリスチャンたちが、私たちの神がどんな神かということを正しく知るように、より深く知っていくようにということなのです。というのは、それによってその人が変わって行くからです。神を知ることによって生き方が変わっていくのです。

・**畏れが生じる**=我々は神がどういうお方であるかということを知れば知るほど、間違いなくその人の心の中には、この方に対する畏れが芽生えていきます。神があなたの心のすべてを見ておられる。しかも、その方はどんな罪も憎まれる方だということが分かれば分かるほど、どうしてこんな私がこの方の前に立つことができるのかと、畏れが芽生えてきます。神を知らない人々の問題はどこにあるか？神を畏れないところにあります。詩篇36篇1節には「罪は悪者の心の中に語りかける。彼の目の前には、神に対する恐れがない。」とあり、また、ローマ人への手紙3章18節はもうすでに見た箇所ですが、「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」とあります。

結局、問題はそこなのです。家庭においても、子どもたちが恐れる存在をもっていなければ、彼らは好き勝手なことをします。人間の問題は恐れる人がいないからです。そうすると自分の好きなことをします。しかし、我々が神を知れば知るほど、この方がいかに聖い正しい方であるか、全知のお方であるかと、神のことが分かれば分かるほど我々はその方に対して正しい恐れをもちます。そして、我々は罪から離れていこうとします。どんな罪であっても、その罪を抱え続けることを止めよう、それから離れようとうとします。神を知ることによって確かにそのような生き方が生まれて来ます。

・**信頼が生まれる**=また、神をより深く知ることによって我々のうちに信頼が生まれて来ます。神は必ずみこころを成されるという、そのことへの信頼です。

・**期待が増す**=また同時に、信頼とともに期待が増して来ます。神はどのようにこの状況を用いて神のみわざを為されるのかという期待です。

・**平安に満たされる**=また同時に、神を知ることによって我々は益々平安をもちます。こんなにすごい神によって私は守られ導かれている、ゆえに、私たちは主の平安をいただきながら歩み続けていくことができるのです。

だから、私たちは私たちの神を正しく深く知ることが必要なのです。パウロもそのことを望んでいました。コロサイ人への手紙1章10節に記している通りです。「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」と。あのパウロでさえも「私はもっと私の神を知りたい」と願ったのです。

適用1：「主をより深く知ることを互いに祈り合う」ことの実践

次のようことをいっしょに祈りましょう。あなた自身のために、周りの兄弟姉妹のために祈ってください。

(a) 主を正しく深く知るために、主が啓示を与えてくださることを祈り求めながら**聖書のみことばを学ぶ**ことです。「主よ、どうぞあなたの真理を教えてください」と、その祈りをもってみことばを学ぶことです。気をつけなければいけないのは、自分に都合の良いみことばを、都合の良い解釈をもって理解しようとするということです。たまに私たちが聞くのは「ちょっとそれは聖書の教えている教えではない」ということです。なぜか？文脈を無視して、そのみことばだけを取るからです。私たちはどちらかと言うと、自分の願いにかなったみことばに目が行きます。それは神の真理を学ぼうとする態度ではありません。まず、私たちにとって必要なことは「神さま、どうぞあなたの助けが要ります。あなたの真理を

理を教えてください。」という態度です。そして、自分が学んだことが正しいのかどうか、聖書を知っている者たちに聞いて見ると良いのです。

(b) 主を正しく深く知るために、主が啓示を与えてくださることを祈り求めながら学びに出席する、礼拝に出席することです。「主よ、どうぞ私に啓示を与えてください。私があなたについてより深く知る助けをください。」と、そのような祈りをもって我々は集会に出席することができます。

(c) 兄弟姉妹がより深く主を知るために、主が啓示を与えてくださることを祈ることです。「主よ、どうぞ私だけでなく私の愛する兄弟姉妹たちも同じように、あなたのすばらしさを正しく深く知ることができるように。どうぞあなたが働いてください。」と。

「啓示」、真理を明らかにすることです。私たちはそのことを願いながら歩んでいきます。

(2) 「**知恵**」＝「知恵」とは、明らかにされた真理、みこころを実践することです。神が示してくださったその真理を、そのみこころを實踐する、それが知恵です。ヤコブ3：13には「**あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。**」と記されています。

(a) 「**知恵のある賢い人**」とは？ヤコブはここで知恵のある賢い人の説明をしています。この「知恵のある人」とは、ユダヤたちにとっては、知識を個人的生活に注意深く適用できる人のことを言ったのです。ユダヤ人の中ではそうだったのです。神の真理、知識を自分の個人的生活に注意深く適用できる人、その人が知恵ある人と。言い方を変えるなら、自分の行動において学んだことを生かせるその能力です。それが知恵なのです。ですから、「賢い人」と出て来ます。このことばは新約聖書の中ではここにしか出て来ません。「賢い人」とは、ただ単に物事に対する知的理解のことではなくて、知識を実生活において適用できる人のことです。ですから、ヤコブが言いたかったことは「賢い人」、知恵のある人とはただみことばを学ぶだけではなく、学んだこと、教えられたそのみこころを実生活に生かしている人です。

(b) 「**知恵のある賢い人の特徴**」：その人には特徴があります。ヤコブが教えます。「その人は、その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。」

・「**柔和な行ない**」＝知恵のある人は非常に謙虚な人だと言います。この「柔和な行ない」ということばの反対は「横柄、傲慢」です。そうではなく、神の前に謙虚な人です。神を知っているがゆえに、神を恐れているゆえにそうなのです。

・「**良い生き方**」＝そして、その人は神の前に正しく生きようとする人です。みことばを常に覚えて、そのみことばを實踐するのです。

ですから、パウロは敢えてそのことを読者たちが間違えないように、ここに「啓示」ということばと「知恵」ということばを用いてこのメッセージを伝えるのです。確かに、私たちはみことばの学びを通して私たちの神を知っていきます。どんな神なのかということを知りたいはみことばの学びを通して知っていきます。同時に、みことばの實踐を通してそのことを知ります。そのことを学びます。

前回、私たちは、ピリピ人への手紙4章6節から「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」と学びましたが、このことを実践された方はいますか？実は、私もしました。というのは、いろいろなことで心が騒ぐことがあります。心の中に何だか喜びがないような状態があります。どうするのか？みことばが教えた通りです。そして、我々が学んだ通りです。確かに、自分たちの思い通りに物事が進んでいなくても、神はすべてのことをご存じです。ですから、自分にとっては非常に心騒ぐ出来事でも、神がご存じなのです。少なくとも、私たちはその方を誉め称えることができます。「私には分からないけれどあなたはすべてをご存じです。主よ、まずこの問題を感謝します。今この件で心が騒いでいますが感謝します。なぜなら、あなたはすべてをご存じであるし、あなたはみこころのままに導いてくださることを知っていますから。」と、そのとき何が起こったのでしょうか？その瞬間に心が変わるのです。今まで自分にとって重荷だと感じたものが一瞬のうちになくなるのです。心が喜び始めるのです。

信仰者の皆さん、そうして私たちは、私たちの神は実に生きておられる方であることを学ぶのです。いつまで経ってもそのことを学ばない人は、みことばはみことば、実生活は実生活と分けるからです。我々は神がおっしゃったことをその通りに受け入れる者として、その通りに実践することです。だから、神は私たちにいろんなチャンスをくださっているのです。我々は日々の生活において勉強しなければいけないのです。信仰の勉強です。いろんな悩みを抱えるというのは感謝なのです。なぜなら、そのときに学んだみことばを實踐するその機会を神からいただいているからです。それをするかしないかによって結果が全然違うのです。恐らく、皆さんは実践なさったことでしょう。そして、皆さんも私と同じように、確かに、神が私の重荷を除いてくださった、神が先ほどまでにはなかった喜びを戻してくださっ

たと、そういう神なのです。この方はおっしゃったことを必ずそのようになさる方なのです。私たちはこの方に信頼を置くことです。この方のみことばに信頼を置くことです。

私たちはこうしてみことばの実践を通して、私たちの神がどんなに偉大な方かを知っていきます。辛いときがあっても、悲しみがあっても、私たちはこのすべてのことをご存じであり、そして、ご自分の最高の計画に基づいて導いておられるこの方に信頼を置くことができます。その方を見上げるなら「神さま、辛いけど悲しいけど心は痛むけれども、あなたが私の神で良かった。感謝します。どうぞ、みこころを成してください。」と、そのときに主はどんな働きを成してくださることでしょう。

適用 2 :

1) みことばによって示されたみこころを実践する決心をし、主に助けをいただきながら歩むこと

これはあなたが決めなければどうにもなりません。「私はこのように生きていきたい」と決心して、それを助けてくれる神に助けを求めなければいけないのです。

2) みことばの教えを日々の生活において適用すること

そして「神さま、私はあなたのみことばを学んであなたが教えてくださる真理を、みこころを、私は日々の生活に適應したい、どうぞ、知恵をください。あなたの知恵が要ります。」と。

3) 兄弟姉妹がみことばの実践に励むように祈ること

私たちは兄弟姉妹が同じようにこのみことばの実践を励むように「神さま、私だけでなく彼らにも知恵を与えてください。」と、そのような執り成しを為していくのです。

パウロの祈りはそこにあったのです。これがパウロが祈ったことなのです。だから、私たちもその祈りを自分に対して、また、兄弟姉妹に対して実践しましょう。

祈りのテーマについて、最初にパウロは祈ったことは「主なる神をより深く正しく知るように」でした。二つ目を見ましょう。

2. クリスマンに約束された祝福を正しく理解するように 18-19節

彼が祈ったことは、兄弟姉妹たちが神から与えられたそのすばらしい祝福を正しく理解するようということです。非常に悲しいことは、多くのクリスマンたちが、救われたときに与えられたその祝福を知らないことです。多くのクリスマンたちが、自分にはまだ何か欠けたものがあると思ってしまうことです。そのようなクリスマンはすぐに周りのクリスマンたちと自分を比較し始めるのです。そして、「自分は弱い信仰者だ。自分はだめな信仰者だ」と、そのように思って落ち込んでいくのです。その結果、ある人々はみことばだけでなく主に対しても懐疑的になり、また、信仰生活や奉仕も消極的になってしまいがちです。そのような状態を放っておくと、その人は益々批判的なクリスマンになってしまいます。なぜ、そのようなことが信仰者のうちに起こるのでしょう？それは罪がその人の喜びを奪うだけでなく、罪がその人に常に与えられているすばらしい祝福を見えなくしてしまうからです。だから、パウロは「私の祈りはあなたたちがすでに与えられた祝福を正しく知ることだ」と、そのように祈ったのです。

マッカーサー先生はこのように言います。「我々の問題は祝福の欠如ではなくて、祝福の理解と、それらを適切に、また、誠実に用いるための洞察力と知恵の欠如である。」と。我々の問題は、祝福の欠如ではないと言うのです。なぜなら、祝福は十分に与えられているからです。我々の問題は「祝福の理解と、それらを適切に、また、誠実に用いるための洞察力と知恵が欠けていること」、そこに問題があるということです。兄弟姉妹の皆さん、主はあなたに十分な恵みを与えてくれました。主はあなたを祝してくださった。そのことを信じていますか？何かまだ自分には欠けたところがあるなどと思いませんか？「神さま、あの人は大いに祝されているけれど私はそうではない」などと思いませんか？そのような問題を抱えている人がいることをパウロは知っているのです。ですから、パウロはこのように言っています。18節「また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、」と。「あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって」、そして、あなたたちにもう与えられている祝福がどんなにすばらしいものか、それを正しく知ることができるようにと彼は祈ったのです。心の目がはっきりと見えるようにならないといけないのです。それが必要なのです。なぜなら、そのとき、信仰者の生き方がより神に喜ばれるものとなって行くことを知っていたからです。それがパウロの祈りなのです。

パウロは私たちが見ているこの18節と19節で、与えられたその祝福に関して、私たちが知らなければいけないことに関して、二つのことを言っています。

◎与えられた祝福に関して、私たちが知るべきこと エペソ 1 : 3-13

1) 救いの祝福を知る＝エペソ 1 : 3 を見てください。「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいま

した。」とあります。もうすでに私たちはこのようなすばらしい祝福によって祝されているのです。それが私たちクリスチャンです。だから、私たちはこの祝福、特に、救いに関して正しく知ることが必要だと言うのです。私たちはどのような者に生まれ変わったのでしょうか？

a) 選び (4 節) = 4 節では「選び」のことが言われています。「すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」、あなたは今、こうして信仰者として主を崇めているけれど、これもすべて神があなたを選んでくださったからだと言うのです。この祝福は創造主なる神があなたを創造する前に定められたことです。

b) 予定 (5 節) = 5 節では「神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定められました。」とあり、すべてのことは神のご計画であり、神の予定のうちにあったと言うのです。あなたは偶然、信仰に至ったのではないのです。偶然、あなたがこの救いを受け入れたのではないのです。すべて神のご計画のうちにあったのです。

c) 罪の赦し (7 節) = 7 節を見ると「私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」とあります。罪の赦しを得ている、あなたの罪を完全に赦してくださったのです。

d) 御国 (11 節) = 「私たちは彼にあつて御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです。」、神はすばらしい御国の約束を与えてくださったと言います。ヘブル 11:10、16にはこのように記されています。「:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。」、「:16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。」

e) 聖霊による証印 (13 節) = 「またあなたがたも、キリストにあつて、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。」、聖霊が与えられている。神は聖霊をもって証印を押されたのです。つまり、この地上のあなたの旅路に対して、神は判子を押して「あなたはわたしのものだ」と言われるのです。その判子とは、聖霊なる神が与えてくださったものです。

今、私たちはこうしてことばを見て来ました。あなたは今こうして救われた者として神の前に立つことが許されています。でも、このすばらしい救いを見たときに、神があなたを選び、神があなたを救いへと導く計画をお立てになり、そして、あなたの罪を赦してくださり、あなたに永遠のいのちを約束してくださり、そして、この地上にあつてあなたに聖霊なる神を与えてくださった。確かに、私たちはことばでそのことを見ます。でも、実感としてそれが湧いてきますか？「すごい神さま！こんなにすごい祝福をあなたは私にくださった！」と、ことばを見て、説明を聞いてなるほどと分かって、私たちの心の中に実感があるのでしょうか？パウロは知っているのです。ですから、私たちの心の目がはっきりと見えるようにと祈ったのです。あなたが救われたことを心から神に感謝する者と変えられていくために、私自身が神が私を救うために与えてくださったその恵みに感動するために、私の心の目が見えるようにと祈るのです。私たちの肉の目は書かれている活字を見えています。問題は私たちの心の目です。

2) 神の力を知る 19 節

もう一つ彼が私たちに言うことは、与えられたすばらしい祝福は「救いの祝福」もあるし、また、私たちに与えられたそのすばらしい「力」についても、それを知ることが必要だということです。

a) 全能の力の働き = 19 節見てください。「また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」、パウロはここで、私たちに与えられている、また、私たちのうちに働いている神の力を教えようとしています。「全能」「力」「働き」ということばはすべて、「力」と訳せるギリシャ語です。しかし、パウロは敢えて、三つの異なったギリシャ語を使っています。そして、その後「信じる者に働く神のすぐれた力」とあります。四つ目のことばです。パウロはこの 19 節に四つの「力」を表わすギリシャ語を使うのです。なぜ、そんなことをしたのか？それは、すべてのクリスチャンが、神のすばらしい約束をいただいた者に相応しく生きていくためです。神の祝福をいただいている者としてそれに相応しく生きていくために、それが可能であることの証拠として、パウロは敢えてここに「力」を表わすこの四つのギリシャ語を使ったのです。パウロは「あなたはすばらしい祝福を神からいただいている。そして、その祝福をいただいた者として、あなたはそれに相応しく生きていくことができる。なぜなら、神の力がもうあなたに与えられているから。」と言うのです。

しかも、20 節を見ると、「神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよ

みがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、」とあり、その「力」はキリストを死者の中からよみがえらせた「力」であると言うのです。こんな力がもう私たちに与えられていると言うのです。だから、私たちが何度も見るように、私たち信仰者は「無理です、ダメです、できません。」という不信仰から卒業して「神さま、どのように私を使ってくれるのか私は期待します」という、そのような信仰者にならなければならないこと。なぜなら、みことばが私たちに教えてくれていることは、「あなたは祝福をいただいた者として、救われた者として、神の子どもとして、それに相応しく生きて神の栄光を現わすことができる。それに相応しい必要なすべての力はもうあなたに与えられている。」であり、そのようにパウロが教えるからです。

これでもか、これでもかという程、パウロは私たちに「何を心配しているのか、何を疑っているのか？神はあなたを変えていってくれる。生まれ変わらせてくれた神はあなたを変えて、もっとあなたが主の栄光を現わす者に相応しい者としていくために、あなたにもう十分な力を与えてくれている。」と言うのです。必要なのは人間の力ではありません。必要なのはこの神の力、しかも、もうすでに与えられた力を信じて生きていくことです。主があなたを助けてくれるのです。それを考えるだけで私たちクリスチヤンの生活は非常にエキサイティングなものと思いませんか？どのように神が用いてくれるのか、どのように神が働くのか、私たちはそのことを期待しながら歩いて行くことができるのです。なぜなら、こんな約束がもうすでにあなたに与えられているからです。

パウロがここで教えたことは、このエペソの兄弟姉妹たちだけのことではないのです。二千年後のあなたのことでもあるのです。あなたも同じなのです。

適用3:

1. 主によって与えられた祝福を正しく知ることができるように、心の目を開いてくださるようにと祈ることで。「主よ、教えてください。あなたが与えてくださった祝福がどんなに素晴らしいものかをしっかりと正しく理解できるように助けてください。」と、その祈りをもって、今、見て来たこのエペソ人への手紙1章を見ていくことです。どんな祝福を神は私たちに与えてくれたのか？
2. そして同時に、兄弟姉妹の心の目も同様に開かれて、希望と感謝をもった信仰の勇者として、栄光を現わすように、また、現わし続けていけるように祈っていくことです。

さて、今日我々は、パウロが実際にエペソの教会のために祈ったその祈りを見てきました。そして、私たちもその祈りに倣って「そういう祈りを実践する者になりましょう。」ということのみことばを見てきました。信仰者の皆さん、まず、個人としてあなたの主をより深く正しく知ることです。それをあなたの祈りに加えてください。「神さま、私はもっとあなたを知りたい。」と。そして、兄弟姉妹のために祈ってください。愛する兄弟姉妹も同じようにこの方を知ることができるように。「主よ、どうぞ私をあわれんでくださり、あなたが私に与えてくださった十分なこの祝福を正しく理解できるように助けてください。私の心の目を開いてください。私は鈍いのです。みことばを聞いてもなかなか理解できないのです。ですから主よ、あわれみをもってこの真理を悟らせてください。そして、同様に、私の愛する兄弟姉妹もこの素晴らしい祝福を正しく知ることによって、ともに、あなたを崇めることができるように。」と、この祈りを加えてください。

なぜ、それが必要なのでしょうか？見て来ました。私たちが神を正しく知ることによって、神のくださった祝福を正しく知ることによって、あなたが変わるからです。あなたは変わっていきます。確実に、神の栄光を現わすことに相応しい者として神があなたをお用いになるからです。そのために、私たちが今日見て来たように、この祈りを実践する者に私たちは変えられていきます。そして、そういう個人として、そういう群れとして私たちが歩いて行くなれば、神が喜んでくださる。それが私たちの望みです。

どうぞ信仰者の皆さん、「祈りの人」になってください。みことばが教えるこの祈りを実践する者になってください。こんな祈りの人に、また、こういう信仰者にあなたが変えられるように祈り続けてください。あなたのためにも、そして、あなたの周りの兄弟姉妹たちのためにも。そして、どのように主があなたや私を使ってくれるのか、期待しながら、主のみこころに従い続けていきましょう。